

■松田正久 政党政治家。帝国議会開設当初から明治末まで、政界で重要な位置を占め続けた。
まつだまさひさ
阿部正弘首座1845 = 肥前国小城郡牛津で、小城藩(佐賀藩の支藩)の下級藩士の次男に生まれる。

ペリー来航・1853 = 8歳：
開国開港・・1854 = 9歳：

蕃書調所・・1857 = 12歳：同藩の家禄7石の徒士で酒造業を営む松田勇七の養子となった。

桜田門外変・1860 = 15歳：

8月18日政変 1863 = 18歳：

明治維新・・1868 = 23歳：
戊辰戦争終・1869 = 24歳： 藩命により、上京して昌平学校で漢学を学んだが、
まもなく廃校となったので、塙景太郎の私塾で国学を、西周の私塾でフランス学を学んだ。

学問のすすめ1872 = 27歳： 西の推薦で陸軍省に入り、ヨーロッパに留学，
明治6年政変 1873 = 28歳： フランスのパリ、スイスのローザンヌで学んだが、
初の民間工場1875 = 30歳： 帰国後まもなく官を辞し、郷里に帰って自明社を設立するなど自由民権運動に投じた。

琉球処分・・1879 = 34歳： 長崎県県会議員に当選、県会議長に選出され、
・・・・1880 = 35歳： *国会開設運動に尽力し、自由党組織の計画に加わった。
明治14年政変1881 = 36歳： 西園寺公望を社長とする{東洋自由新聞}の創刊に参画。
新体詩抄・・1882 = 37歳： 県会議長を辞任し、九州改進黨の結成にあたる。

国民之友始・1887 = 42歳： 山田顕義司法大臣の勤めで司法省に入り、検事(大阪始審裁判所)をつとめたが、
初の対等条約1888 = 43歳： 鹿児島造士館教頭に転じた。
帝国憲法発布1889 = 44歳：
帝国議会始・1890 = 45歳： *帝国議会開会が迫ると、造士館教頭を辞して、政治活動を再開し、九州同志会の有力メンバーとして活躍。
足尾鉾毒始・1891 = 46歳： 第二議会では、衆議院の予算委員長をつとめ、“経(政)費節減・民力休養”の立場から政府提出の次年度予算案を大幅に削減する査定案を決定し、政府(第1次松方内閣)と衝突して衆議院解散を招いた。そのため、
大本教・・・1892 = 47歳： 第2回総選挙では、政府(品川弥二郎内相)の激しい選挙干渉により落選し、以後4回落選を重ねた。
日清戦争始・1894 = 49歳： 第2次伊藤内閣と自由党との公然たる提携に一役買い、
日清戦争終・1895 = 50歳： *自由党と進歩党の合同による憲政党の結成に参画し、憲政党を基礎とする第1次大隈内閣(いわゆる隈板内閣)の成立にあたって大蔵大臣として入閣。第6回衆議院議員総選挙で8年ぶりに当選、以後、第11回総選挙まで連続当選する。憲政党分裂による大隈内閣瓦解で蔵相を退くが、自由党系として憲政党にとどまり、
子規句歌革新1898 = 53歳：
Bushidou・・1899 = 54歳：
ビノ国産化・1900 = 55歳： 星亨らとともに伊藤博文を擁立して立憲政友会の創立にあたり、総務委員(のち総務委員長)をつとめ、第4次伊藤内閣の文部大臣となる。
日比谷公園・1903 = 58歳： 伊藤のあとを受けて総裁となった西園寺公望を原敬とともに補佐し、政友会の実力者として地位を確立。
日露戦争始・1904 = 59歳： 衆議院議長となり、<日露戦争>下の議会で政府(第一次桂内閣)と議会の和協に努力。
日露戦争終・1905 = 60歳：
満鉄発足・・1906 = 61歳： 第1次西園寺内閣の司法大臣に転じ、さらに大蔵大臣もつとめる。
アヲ井 創刊・1908 = 63歳：
大逆事件判決1911 = 66歳： 第2次西園寺内閣の司法大臣を歴任。
明治天皇没・1912 = 67歳：
大正政変・・1913 = 68歳： *病軀をおして政友会を指導し、憲政擁護運動を進め、第3次桂内閣を退陣に追い込んだ。第1次山本内閣の成立に際して三たび司法大臣に任命されたが健康を害して辞任し、
第一次大戦始1914 = 69歳： 男爵を授与されてまもなく、東京麻布算町の自宅で_没した。